

平成27年

6月6日 土

雨天の場合中止

前夜祭

17時～21時

開会式・斎王他出演者披露

特別ゲスト/二十五絃箏奏者 中井智弥・大場浩子

斎王市

15時～21時

斎宮歴史博物館会場

6月7日 日

雨天の場合中止

禊の儀・斎王群行

13時～15時

上園芝生広場～斎宮歴史博物館

協力参加/皇學館大学雅楽部の皆さん

斎王市

10時～15時

アトラクション

斎王まつり

三重県明和町

第三十三回

皇女の都

斎宮につどう



三重県観光キャンペーン
2013.4～2016.3

配役

斎王
さいおう



前田 彩乃
(明和町)

子供斎王
こどもさいおう



石谷 好花
(斎宮小)

舞人
まいびと



鎌田 礼規
(津市)



島田 優希
(津市)



間瀬 悦子
(豊橋市)



坂谷 有絵
(伊勢市)



郭 圣男
(中国)

舞人
まいびと



史 暁倩
(中国)



陳 良嬋
(中国)



笹田 千尋
(東京都)



山本 泰広
(松阪市)



岡森 義貴
(大阪市)

風流傘
ふうりゅうがさ



江原 章人
(伊勢市)



廣垣 大毅
(伊勢市)



永峯 孝
(東京都)



倉田 進
(津市)



中村 幸美
(明和町)

女別当
にょべつどう



八木 美海
(津市)

内侍
ないし



中保 友里
(津市)



濱口 彩加
(伊勢市)



丸山 優香
(津市)



来光 美希
(松阪市)

采女
うねめ



小野 瑞季
(三島市)



加藤 いづみ
(松阪市)



小山 千緩
(伊勢市)



青山 阿南
(名古屋市)



谷口 世奈
(津市)

命婦
みょうぶ



三留 紀子
(京都市)



高木 晴加
(四日市市)



辻本 奈央
(香芝市)



堀田 莉沙
(松阪市)

検非違使
けびいし



早川 哲生
(伊勢市)



笠井 純花
(加古川市)



下井 柊太朗
(伊勢市)

與丁
よちよう



中村 和人
(伊勢市)



トニー・シャーン・チュアン
(カナダ)

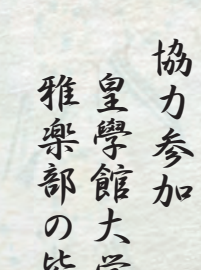
命婦
みょうぶ



藤本 夢美
(伊賀市)



三谷 成美
(亀山市)



松本 梨紗
(名張市)

女孺
にょじゆ

協力参加
皇學館大学
雅樂部の皆さん





第33回斎王まつりは、「皇女の都 斎宮につどう」をサ
ブテーマに企画しました。
ここ斎宮には今年7月に斎宮寮の正殿・西脇殿・東脇殿
の三棟が実物大の姿で再現され完成します。この建物を
中心とした公園の名称も一般公募により「さいくう平安
の杜」と名付けられ、また新しい観光名所が誕生いたし
ます。
近鉄電車斎宮駅もリニューアルされて、いつきのみや
歴史体験館側（斎宮駅北側）にて乗降車できるようにな
りました。
また秋には、観月会・オープニングセレモニーなど
大々的なイベントなども控えております。
そして、文化庁の「日本遺産」に「祈る皇女斎王のみや
こ 斎宮」の名称で認定されました。
今後も全国区としての「斎王まつり」の名に恥じないよ
うに、実行委員一同つとめてまいります。
サブテーマのように、第33回斎王まつりで斎宮にお集
いいただき、秋には「さいくう平安の杜」にお集いいた
だき皆さまがより一層、皇女の都 斎宮にお集いいた
ければ幸いです。

第三十三回 斎王まつりを迎えて

童・童女 出演者 (順不同)



江上 あいか



上西 郁菜



石井 有梨愛



井坂 玲音



井坂 真依



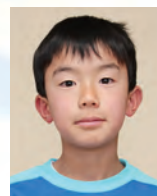
荒井 良政



荒井 七穂



野村 奏夢



中村 太一



中瀬 莉里花



田端 大成



田野上 由唯



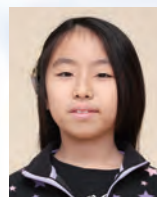
小畑 愛菜



大形 聖奈



石田 心愛



池田 梨夢



青木 莉帆



松本 美愛



松本 望里



橋本 展華



野村 玲音



小山 桜花



北川 侑奈



北山 絢菜



川口 釉菜



河合 美於



落合 稀子



宇城 那瑠



橋本 衣緒菜



西田 結美



中山 叶夢



中村 笑子



中川 心愛



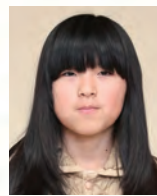
田野上 実由



島田 菜乃栞



黒坂 更紗



宇城 沙良



稲垣 紀花



伊藤 明花



諸岡 愛美



保本 悠咲々



東村 美海



村田 萌



三田 空来



溝川 怜香



林 ひなた



西田 成美



中村 萌佳



鈴木 晴日

第33回 斎王まつり 4

(雨天中止) 6/7(日)

(雨天中止) 6/6(土)

斎王市

15:00 ~ 21:00

前夜祭

17:00 ~ 21:00

斎宮歴史博物館会場
開会式

特別ゲスト

二十五絃琴奏者
中井智弥・大場浩子
斎王他出演者紹介

斎王市

アトラクション

10:00 ~ 15:00

斎宮歴史博物館会場

禊の儀・発遣の儀

13:00 ~

上園芝生ひろば(斎宮駅北側)
協力参加
皇學館大学雅楽部

斎王群行

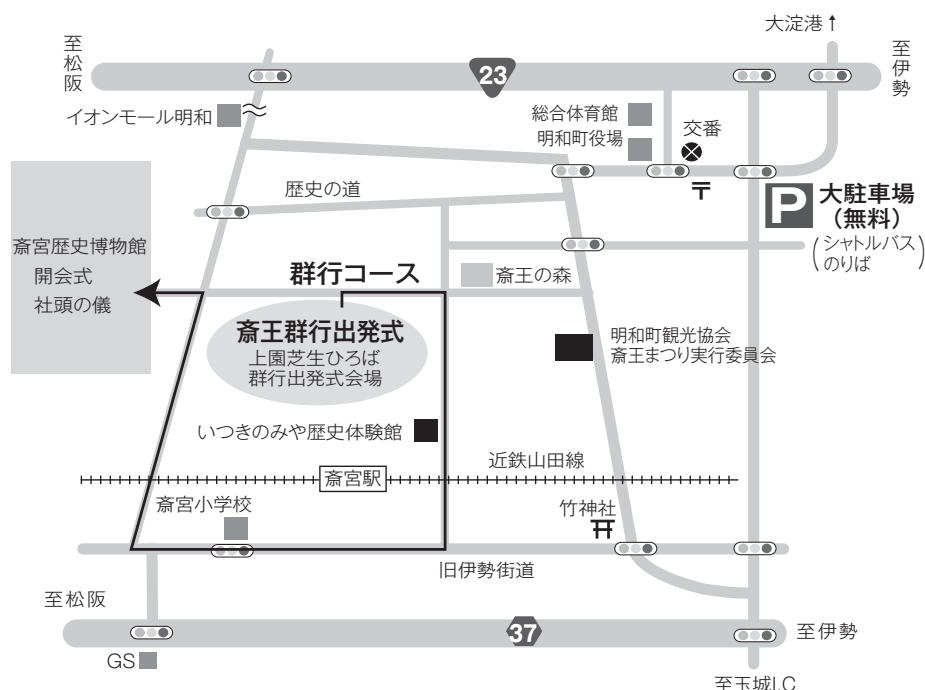
上園芝生広場から
斎宮歴史博物館会場まで

社頭の儀

14:45 ~ 15:00

もくじ

斎王まつり配役	2
斎王まつり童・童女出演者	4
復元建物と「さいくう平安の杜」	6
斎王一覧	8
斎宮跡の発掘調査	9
斎王と結婚の話	11
いつきのみや歴史体験館	13
業平松を詠んだ歌	14
特別ゲスト紹介	15
図書の紹介 / 実行委員会組織体制	16
斎王まつり実行委員会活動	17
群行衣裳	18
フォトコンテスト	20
第32回斎王まつりの思い出	22



いよいよ完成へ！史跡斎宮跡復元建物建築工事



復元建物と「さいく^{もり}う平安の杜」

斎宮歴史博物館では、本年七月の完成をめざし、平安時代初頭（九世紀前葉）の三棟の建物（正殿・西脇殿・東脇殿）を対象に復元建築工事を進めています。場所は、斎宮寮の儀礼・饗応のための場であったとみられる「柳原区画」です。柳原区画は、斎王の居所である「内院」があったと推定される「牛葉東区画」（現在の竹神社所在地）とは古代の道路を挟んだ北に隣接し、「内院」とともに平安時代を通して斎宮の中枢部を担ったとみられる区画です。ちなみに日本最古の「いろは歌」墨書土器も、柳原区画のすぐ前（区画としては牛葉東区画）から出土しています。

地下遺構の保存と建設工事

さて、いくら復元工事といえども、地下に残る斎宮の重要な遺構を傷つけることはできません。そこで、今回の工事では、発掘調査で確認した地下遺構を損なわないよう遺構面を地下に保存したうえで、ベタ基礎と呼ばれる工法を採用し、その基礎の上に建物を建てています。ただし、柱そのものは、発掘調査で確認した

柱の位置の直上に立てており、平安時代と同じ場所に、同じ広さの建物が建つことになります。また、復元建物は、当時の様式・工法に可能な限り忠実に復元していますが、構造を支える主な柱の中には鉄柱を仕込み、現代的な建築基準にも合うよう建物強度を補強しています。これによって、完成後は建物の中に入って、いろいろな利活用をすることが可能となります。

復元建物建築工事の様子

復元建物建築工事は、ベタ基礎の上に鉄柱を据えた後、平成二六年一〇月末から本工事を開始しました。本工事の大まかな流れを、最初に工事に取り掛かった西脇殿の工事から紹介していきます。

まず、据えた鉄柱を含む鉄製の構造部分（鉄柱をつなぐ梁や桁の材など）に、内側を剥り抜いた木材を取り付けます。次いで、屋根を覆う檜皮を葺くための屋根下地造りに進み、一月半ばには屋根下地が完成しました。ここまですが大工さんによる工事です。

屋根下地が終わると、檜皮葺^{ひわだぶ}きはじまります。檜皮葺きは、ヒノキの樹皮を用いて屋根を葺く日本独自の屋根工法です。この作業には、専門の檜皮葺き職人さんがあたり、一枚一枚、薄い檜皮を手作業で重ねながら、竹釘で留めていきます。繊細で根気のいる作業ですが、仕上がった檜皮屋根は美しく、平安時代建物の優美さを示すものとなりました。

檜皮葺が終われば、屋根の最上部となる棟の工事や、壁や床の取付といった内装工事が行われます。これは、再び大工さんによる作業です。このように、復元建物の建築では、熟練した大工さんと檜皮葺き職人さんが連携しながら、工事が進められました。

復元建物の公開

今回の復元工事では、昨年八月から毎月一回、工事現場見学会を開催し、復元建物の建築過程を公開しました。建物の基礎から少しずつ形が整っていく建物の様子をご覧頂くことによって、古代建築に想いを馳せ、斎宮の復元建物により親しんで頂く

うという試みです。見学会では、施工業者さんの協力も得て、檜皮作りや檜皮葺き作業の実演、それに古代の大工道具であるヤリガンナを用いて柱の表面を削る体験なども実施しました。毎回工夫をこらし、多くの見学者にご好評を頂きました。また、適宜、団体での工事現場見学も受入れ、地元の小学校や県内高等学校、建築士会、歴史愛好家団体など、多くの団体の方々に復元建物を通して斎宮跡や古代建築に親しんで頂くことができました。

完成に向けて

復元建物建築をはじめとする史跡斎宮跡東部整備事業は、今年度で完了の予定です。今後は、史跡公園「さいく^{もり}う平安の杜」として、より多くの方々に斎宮という素晴らしい史跡を実感し、また親しんで頂けるよう取り組んでいきたいと考えています。

（斎宮歴史博物館 調査研究課）

斎宮歴史博物館ホームページ

<http://www.bunka.pref.mie.jp/saiku/>



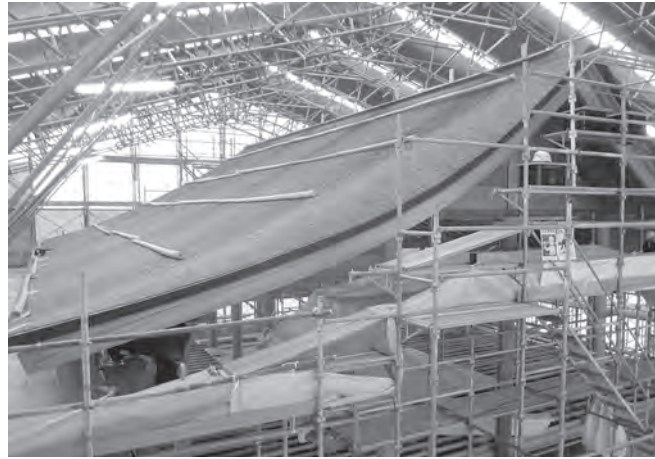
竹釘で檜皮を留めていきます(西脇殿)



垂木を取り付けるなどの屋根下地作業(西脇殿)



工事見学会でのヤリガンナ体験の様子



葺き上がった檜皮(西脇殿)

斎王の伊勢滞在期間は短くて二年、長い人では三十二年という例があり、年齢は五歳から十五歳の少女に集中しており、最高で群行時三十二歳という斎王もいます。

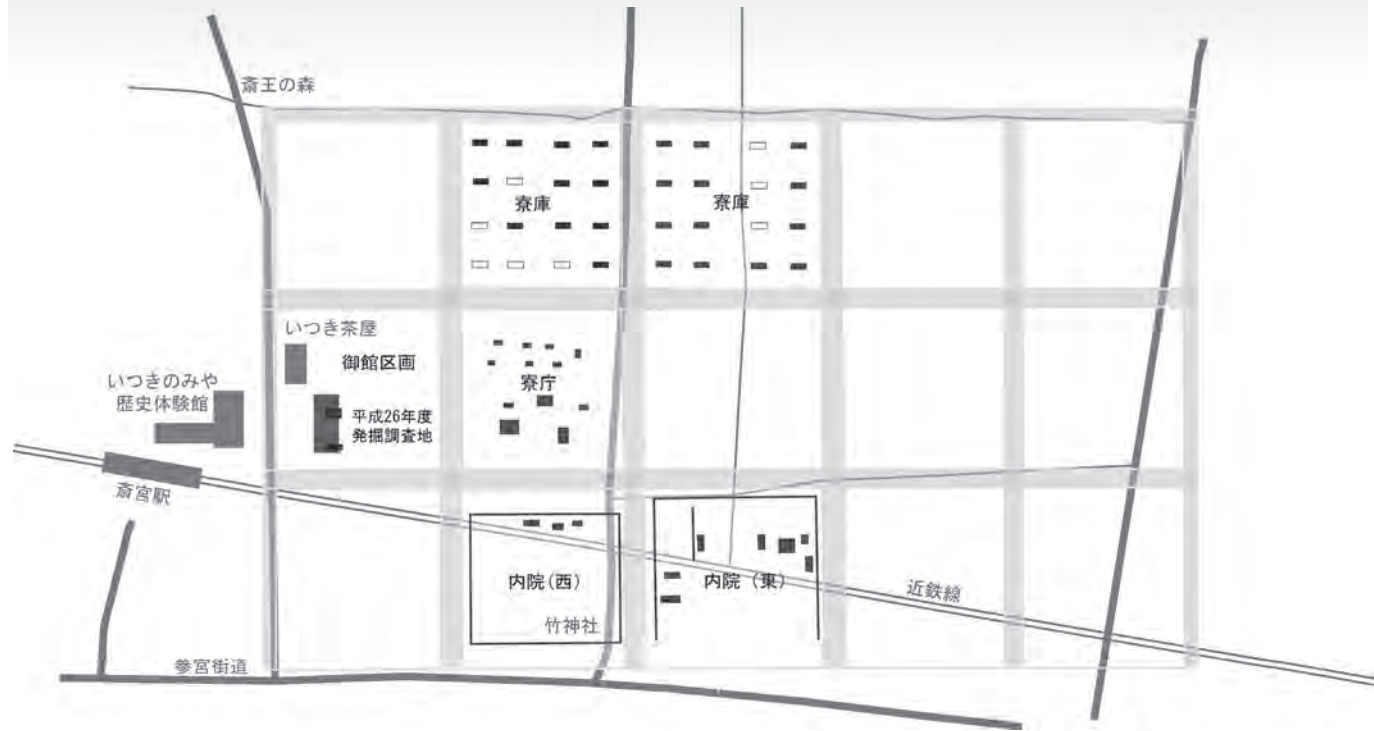
*は女王(天皇の娘以外の皇族女性)
〔 〕内は実在の確認できない斎王
○は斎宮に群行した斎王
△は斎宮に群行しなかった斎王

時代	歴代 斎王	在任期間(年)	天皇	西暦	歴史上のできごと
	豊鍬入姫(とよすきいりひめ) 倭姫(やまとひめ) 五百野(いおの) 「伊和志真」(いわしま) 稚足姫(わきたらしひめ) 荳角(とさげ) 磐隈(いわくま) 菟道(うじ) 酢香手姫(すかてひめ)		崇神、垂仁 垂仁、景行 景行 仲哀 雄略 継体 欽明 敏達 用命、推古		
飛鳥	○大来(おおく) ○当耆(たき) ○泉(いずみ) ○田形(たかた) 「多紀」(たき) 「円方」(まどかた) 「智努」(ちぬ) ○久勢(くせ)	六七三 六八九 七〇一 七〇六 七〇六 ? ? ? ?	天武 文武 文武 文武 元明 元明 元明 元明 元正	(六七二) (六七四) (六九四) (七〇二) (七〇八) (七〇二) (七二二)	壬申の乱 大来皇女 大和の泊瀬から伊勢に向かう群行の確実な初例(日本書紀) 藤原京に遷都 斎宮司が寮と同格になる 斎宮官制の初見(続日本紀) 和同開珎鑄造 平京城に遷都 古事記撰上
奈良	○井上(いのうえ) ○県あがた ○小宅(おやけ) ○山於(やまのうえ) ○酒人(さかひと) ○浄庭(きよにわ) ○朝原(あさはら) ○布勢(ふせ) ○大原(おおはら) ○仁子(よし) ○氏子(うじこ) ○宜子(よしこ) ○久子(ひさこ) ○晏子(やすこ) ○恬子(やすこ) ○識子(さとこ) △掲子(かぎこ) ○繁子(しげこ) ○元子(もとこ)	七三 ? 七四九 七五八 七七一 ? 七八二 七九七 八〇六 八〇九 八三三 八三三 八三三 八三三 八五〇 八五〇 八五九 八八七 八八七 八八四 八八七 八八九	元正、聖武 聖武 孝謙 淳仁 光仁 光仁 桓武 桓武 桓武 平城 嵯峨 淳和 淳和 仁明 文德 清和 陽成 陽成 光孝 宇多	(七二〇) (七二八) (七五二) (七五九) (七八四) (七八四) (八〇四) (八〇五) (八〇六) (八四四) (八三九)	日本書紀撰上 斎宮寮の拡充整備 官人の定員と官位が決まる(類聚三代格) 東大寺大仏開眼供養会 万葉集編纂 長岡京に遷都 平安京に遷都 最澄帰国 比叡山に延暦寺建立 空海帰国 高野山に金剛峰寺建立 多気の斎宮を度会の離宮(小俣町離宮院跡に移す(類聚国史)) 度会の斎宮 離宮院の官舎百余棟焼失 斎宮を多氣に戻す(続日本後紀)
平安					

[illegible]

齋宮跡の発掘調査

平成26年度の



平成26年度発掘調査位置とこれまでの調査

齋宮跡、四〇年の発掘成果

斎宮跡の発掘調査は昭和四五（一九七〇）年に始まり、すでに四〇年以上が過ぎました。これまでの調査で史跡斎宮跡はどこまで解明されてきたのでしょうか。そして、今後も続く発掘調査は、斎宮の何を明らかにしようとしているのでしょうか。

四〇年間にわたる発掘調査は斎宮跡の様子を次第に明らかにしてきましたが、その中でもっとも大きな発見の一つは、都のような碁盤の目状に区画を区切る道路が確認されたことでした。道路は、幅五〇尺（一四・八メートル）を基本として東西南北に走ります。これは現代の自動車道路の四車線分に相当する幅の広さです。さらに、この道路によって囲まれた一つの区画は、一辺の長さが四〇〇尺（一一・八メートル）あります（※注）。これは当時の都である長岡京と同じ規格です。

では、この各区画の中には何が建っていたのでしょうか。またそれぞれの区画はどのような役割を持っていたのでしょうか。

うか。

現在の竹神社の周辺では、斎王の宮殿である「内院」が確認されました。長大な塀で囲まれた空間の中に、大きな建物
が確認されたのです。そして、この場所
からは、緑色の美しい釉薬がかけられた
高級な焼き物の「緑釉陶器」が多数出土
したことから、ここが斎王の宮殿
跡「内院」であることが分かりました。

また、齋宮寮の役人が政務や儀礼を行う「寮庁」も明らかにありました。北側、東側、西側の三方から広場を取り囲むように建物が配置された場所が確認されたのです。三つの建物はいずれも格式の高い建物で、そのことから齋宮寮の長官らが儀礼を行う場であると考えられました。この場所は現在、平安時代の建物の復元工事を行っています。

さらに、「寮庁」の北東には、倉庫群が確認されました。一つの区画の中に整然と一六棟の建物が並ぶことが確認されたのです。一つの建物は、東西約一二メートル、南北約四・八メートルの大きさです。面積は五七・六平方メートルあります。この倉庫は、斎王をはじめ、斎宮に



発見された2棟の建物(写真奥の森は竹神社)

いる人々の日常生活を支える品々や、役人の給料となる物品を保管していたものだと考えられており、「寮庫」と呼んでいます。

※四五〇尺、四一〇尺の区画もあります。

平成二六年度の調査

内院、寮庁、寮庫。方格地割の内部は次第に明らかになってきました。では、寮庁の西側、現在、いつき茶屋のある区画はどのような場所だったのでしょうか。この場所の小字名を「御館（みたち）」と言います。その名前から、斎宮長官らの館（やかた）があった場所ではないかと早くから注目されてきた場所です。

平成26年度子ども体験発掘



御館区画ではこれまで昭和四九年度第八―九次調査を皮切りに四〇年間にわたって発掘調査が続けられ、少しずつ様子が明らかとなってきました。平成二六年度の発掘調査は、「御館区画」南西部の状況を解明することを目的に実施しました。調査した面積は約四〇五平方メートルです。

調査の結果、^{ほつたてばしたてのもの}掘立柱建物、^{どこう}土坑、溝などが見つかりました。その中で注目され

るのは南北に並ぶ二棟の掘立柱建物です。建物はいずれも東西方向に長い建物で、横幅は一二メートル（約四〇尺）と共通します。北側の建物は、南側に^{ひさし}庇がつき縦が七六メートル（約一七・五尺）。

南側の建物は庇がなく、縦が四・八メートル（約一六尺）でした。さらに、南側の建物は、御館区画の南側を走る道路から一四・八メートル（約五〇尺）の位置に建てられていたことが分かったのです。この二つの建物は、柱穴の形や出土した土器から平安時代初め頃のものと考えられます。このころ、まず碁盤の目状の道路が整備され、それを基準に建物の配置が決められていったものと考えられます。

このような規則的な配置は、その後時代が下るにつれてみられなくなります。今回の調査地では、平安時代の後期になると、道路に近い部分に集中して柱穴が見られました。このことは、御館区画の内部全体を余すところなく利用しようとする本来の理念が崩れ、道路に近い便利な部分だけを利用するように変化したことを示していると考えられるのです。さら

斎王と結婚の話

榎村 寛之

と説明しないといけないからです。実は、皇族の結婚については、奈良時代に制定された『律令（正確には養老律令）』の継嗣令に、次のような規定があります。

「およそ、王は親王を娶り、臣下は五世の王を娶ることを許せ。ただし五世の王は、親王を娶ることができない（凡王娶親王、臣娶五世王者聽。唯五世王。不得娶親王）。」

これを逆に言うと、「王でないと親王をお嫁さんにはできません。臣下がお嫁さんにできるのは五世の王からです。ただし五世の王は、親王をお嫁さんにできません」

親王は天皇の子、つまり皇子女のことです、王というのはその次からの世代、そして六世になると臣下になってしまいいます。で、この代数は原則として男系で継承されるので、たとえば五世王が内親王をお嫁さんにして生まれた子は六世なので臣下となるのです。これは少し具合が悪いので禁止、というわけですね。この法律は男性基準で書かれていますので、

娶られる「親王」とは内親王のこと、つまり内親王は、親王と四世より上の王としか結婚できなかったのです。

この法律は奈良時代の法律です。そして奈良時代には、王と内親王の結婚というのは珍しくありませんでした。たとえば天武天皇の孫（高市皇子の子）の長屋王の奥さんは文武天皇の妹（岡宮御宇天皇と諡された草壁皇子の娘）の吉備内親王です。聖武天皇の娘の不破内親王も天武天皇の孫の塩焼王（新田部親王の子、のちに水上塩焼）と結婚しており、その姉で元斎王の井上内親王が天智天皇の孫（施基皇子の子）の白壁王と結婚し、夫が光仁天皇となったので元斎王で唯一、皇后になったのはよく知られています。

ところが平安時代になると事情が変わると、奥さんの数が飛躍的に増え、子どもの数も倍増どころではなくなります。ならば内親王の結婚相手も沢山できずが、実はそうではないのです。皇族が増えると養育費がかさむ、そこで桓武天

に鎌倉時代になると、この場所ではもはや柱穴も見られなくなります。時代は平安時代から鎌倉時代へ。斎王が伊勢へ赴くことが少なくなるこの時期、斎宮の中心部からも建物は消えていくようです。

斎宮跡の発掘調査はジクソーパズルに似ています。一つ一つのピースに描かれているものが何なのかはすぐには分からないように、一回の調査で分かることはごく限られています。しかし、そのピースを一つ埋めるごとに、より鮮やかな斎宮の様子が明らかになります。今回の調査も新たなピースの発見であったといえるでしょう。

斎宮歴史博物館の行う発掘調査は、いつでもご見学いただけるほか、現地での説明会も開催しています。また、発掘調査の成果については博物館で展示を行うほか、小・中学生の体験発掘や中学生職業体験の受入れも行っています。「寮庁」で進めている復元建物の建設工事と合わせて、これからも斎宮歴史博物館の行う発掘調査にご注目ください。

（斎宮歴史博物館 調査研究課）

皇は、不要な子孫に姓を与えて貴族に降ろすことを始めました。良峯氏などがそうですが、孫世代に始まる桓武「平」氏が有名です。これをさらに積極的に行ったのが桓武の子の嵯峨天皇で、その子女の多くに「源」姓を与えました。その子たちは一文字の名前を付けられ、その中からは大臣に上った源融、源信などが出ています。

こうした動きを「臣籍降下」といい、多くはいわば不急の皇族のリストラと再活用だったのです。またその一方、嵯峨天皇に鍾愛された娘の一人は、源潔姫の名をもらい、嵯峨が最も将来性を見込んだ貴族、後に臣下で初の摂政となる藤原良房に嫁ぎました。これはいわば天皇の側から法律の網目をかいくぐった結婚、ということですね。

さて、このようになると何が起るか、二世、三世の皇族は何かと不自由な皇族を嫌い、ほとんどが源氏になっていくのです。そして源氏は原則として貴族です。で、内親王とは結婚できません。一方数少なくなる男性の親王は、多く摂関家や源氏の大臣級貴族ら正妻を迎えます。つまり内親王の結婚相手は、平安時代になると極めて少なくなるのです。こうして内親王の結婚は極めて希なことになりました。

さて、斎王の場合はどうか、前述の井

斎王は都から伊勢にやってくる皇族のお姫様です。プリンセスなわけですね。そしてプリンセスの中でも、天皇の代わりに伊勢神宮を拝礼するという重要な任務につくために、世間から隔離され、斎宮で暮らす、という人生を送ります。そして色々な理由で天皇が代わったり、身内に不幸があったりすると斎王も交替します。十年前後で替わることが多かったようです。

そして選ばれた年齢の傾向を見ると、十歳までの人もかなり多い、つまり二十歳前後で都に帰る斎王も割合に多かったわけです。

このように説明すると、お客様からよく質問を受けます。

「都に帰られた斎王さまは、結婚されたのですか？」

答えはNOなのですが、「ああやっぱり神様にお仕えする方は結婚できないのですね」と言われると、少し困ってしまうのです。「いいえ、内親王などの皇族女性は、そもそもほとんど結婚できないのです」

上内親王の娘、酒人内親王は異母兄の桓武天皇と結婚し、二人の間に生まれた朝原内親王は平城天皇と結婚しました、ところがその後、斎王の結婚は、バタツとなくなってしまうます。普通の内親王でも結婚できないのに、ましてや元斎王は、という感じなのです。



しかしそれでも、元斎王でしかも内親王なのに、結婚にこぎ着けた人もいます。それは醍醐天皇の皇女雅子内親王（九一〇～九五四）。十世紀前半、朱雀天皇の時代に斎王を務めていました。伊勢にいたのは二十代の四年弱です。実はこの斎王、卜定以前に恋人がいたのです。

その名は藤原敦忠。彼は菅原道真を追い落とした左大臣藤原時平の子でした。時平は当時の最高権力者でしたが若くして亡くなっており、道真の崇りと噂されていました。しかし一流の貴族の子弟であることは間違いありません。しかし当時は正五位下という身分、いわば売り出し中の若手貴族にすぎません。天皇の勅許が得られたかどうかは微妙なところ。しかし斎王に選ばれてしまえば恋愛は御法度。二人は深い悲しみの歌を何首も交わし、それは敦忠の歌集『敦忠集』のかなりの部分を占めています。

しかし雅子は割合に短い間で斎王を退任して都に帰ってきます。ところがその彼女を射止めたのは敦忠

ではなく、藤原師輔、時平の弟の藤原忠平の子でした。

師輔は敦忠より三歳の年下で、雅子より一歳の年上。しかし雅子が帰京した承平六年（九三六）には敦忠が従四位下蔵人頭兼左近衛権中将なのに対して、師輔は従四位下参議です。敦忠はいわゆる「頭中将」で、かっこいいエリート官職、一方師輔の参議は、すでに公卿の一面に食い込む立場でした。実は師輔も伊勢に下る雅子に歌を送っているのですが、敦忠の熱烈さに影に隠れていたのです。しかし師輔の父、忠平はまだ現役の権力者です。そして師輔には、雅子の異母姉、勳子内親王が降嫁するというまさに特例がすでにあり、より有利な立場となっていたのです。なお、師輔は後に右大臣となりますが、関白になる直前に死去、その孫が藤原道長です。そしてこののち、雅子内親王が亡くなった後には、その妹の康子内親王に通り、三人目の内親王を妻にしています。三人もの内親王を正妻にした藤原氏の権力者はちよつと例がありません。なお雅子内親王は、師輔との間に四人の子を儲け、その孫の源明子が藤原道長の妻になり、その遠い子孫には藤原定家もいるのです。

さて、結婚こそできなかったけれど、恋に生きた斎王がもう一人います。三条天皇の娘で父天皇の時代に斎王をつと

ることから「舞い立ち昇る龍の鳴き声」とたとえられており、名前の由来になっているそうです。

龍笛を基礎から学べて、また9月には観月会にて披露するので、目的を持ってできます。講師には元伊勢神宮雅楽長を開講当初からお迎えしており、女性希望すれば講座終了後に舞の稽古をすることもできます。毎年1月には募集を受け付けており、2月から11月までの間に全18回貴重な体験をしてみませんか。

さてまだまだありますが、最後に大人気の体験を紹介するメエ。

いつきのみや歴史体験館といえば、「十二単」「直衣」という平安時代の装束をベアで本格的に体験できる施設で有名です。女性なら一度は着てみたいと憧れる「十二単」。想像するだけでもうつとり着替えるとなると時間も手間もかかって面倒なんじゃないかと思いますが、ぜひ想像だけでなく気軽に予約さえ前日までに入れておけば、持ち物はカメラと体験料だけ！あとは何にも要らないの。

1日2回午前10時30分から午後2時から体験ができ、スタッフが丁寧に着付けをしてくれる。めえめえも女の子だから着たいな。お子様用の装束もあるので組み合わせたら親子での体験ができます。1人でお越しただいても、スタッフがたくさん撮ってくれるのでカメラは絶対持ってきてメエ。

さて今回はめえめえについておはなししましたが、知ってもらえたかな？講座や体験も貴重なものばかりです。ぜひいつきのみや歴史体験館や斎宮跡にロマンを感じに来てくださいメエ。



めた当子内親王です。彼女が恋に落ちたのは斎宮から帰京した後、長和五年（一〇一六）のことなのですが、ちよつと相手が悪かった。

彼女の恋の相手は藤原道雅といいま。藤原道長の兄、中関白と言われた藤原道隆の子、伊周の長男です。伊周の一族は道長との政争に敗れ、身分は高いが出世できない存在です。そしてこの道雅、三条天皇に代わって即位した後一条天皇の蔵人頭、つまり秘書官長となるのですが、わずか8日で更迭されてしまつ、というかなりの問題児だったのです。二人の密通が発覚すると、当然父の三条上皇は怒り狂い、手引きをした当子の乳母を追放してしまうほどでした。一方の当子は、仲を裂かれたことで思い詰め、自ら髪を切つて尼になりました。何とも激しい悲恋物語です。

これが斎「女王」なら、村上天皇の後宮に入り、斎宮女御と呼ばれた微子女王、あるいは「長元の託宣」事件を起こした後、関白藤原教通の妻となった嬪子女王など、時々結婚した例が見られます。そういえば「源氏物語」に出てくる元斎王の秋好中宮も、皇太子の娘の女王でした。このように、同じ斎王でも、斎「内親王」の結婚は、斎「女王」の結婚に比べて、遙かに難しいことだったのです。

いつきのみや歴史体験館をご紹介します!!



昨年ひきつづきめえめえがいつきのみや歴史体験館を紹介します！

その前に：今年平成27年はいつじ年。今年は「めえめえ」の年です。そこでめえめえについて少しおはなしするメエ。

知ってる人もいるかもしれませんが、めえめえは「羊形硯」をモチーフにしています。

ではその「羊形硯」っていったいなに？一言で言うてしまふとその名前の通り、羊の形をしたとってもめずらしいすずり：で終わってしまいますが、とっても歴史あるすずりです。

奈良時代には大陸の影響を受けて動物の形をしたすずりが造られたそうです。羊形硯そのひとつで、全国では10例ほど出土されています。昭和54年に国史跡に指定されているこ斎宮跡でも、この年に「羊形硯」の角の大部分が欠けた頭部が出てきています。また平成20年にも現在建設中の復元建物付近から「緑釉」がけされた「羊形硯」が角の一部が見つかっています。「緑釉」とは緑の釉薬がかけられており、8世紀中頃に平城京周辺で造られた可能性が考えられるとのことですが、緑釉がかけられているものは斎宮跡だけしか出土していません。複数の羊形硯がでてきているのは、斎宮跡の他は平城京跡だけというから：考えただけでも歴史ある大変めずらしいすずりだということがわかるメエ。とってもお勉強になりました。

めえめえはそんな歴史ある斎宮跡のいつきのみや歴史体験館のキャラクターとして活動しています。いつきのみや歴史体験館だけでなく斎宮跡や明和町のことも一緒に世界に知ってもらうためにがんばるメエ!!お呼ばれる時は、トレードマークの赤い筆と季節によって、お帽子の時や寒い時は手編みのマフラーなどめえめえも女の子だからおしゃれを楽し

みつつ、PRにおでかけします。もつとたくさん子どもたちやみなさんと出会うために、もつとめえめえを知ってもらいたいのので、ぜひみなさんの街にめえめえを呼んでくださいメエ。

それでは、今回はいつきのみや歴史体験館で予約して体験したい!!そんな体験を紹介するメエ。まずは講座から紹介します。年間さまざまな講座を開催しています。

夏休みや大型連休には、機織り体験を開催してい

ます。はたおりって？古代の人々は自分たちで糸をつくり、糸を染めて、その糸で布を織る：そんな歴史を体験できるのが機織り体験です。自然の草木で染めた麻糸を使い、踏み木を踏みながらたて糸によりこ糸を右から入れてトン：また左から入れてトン：と織っていく。繰り返し繰り返し織っていくと布が出来上がってきます。松阪の返し織っていくと布が出来上がってきます。松阪の神麻績機殿神社で使っているものを平成3年に再現させていただいた高機を使つての体験は、大人だけでなく小学生も体験できるとあって人気の講座のひとつです。またコースターや絹を体験することもでき、何度でも体験したくなるのが魅力。めえめえは手も足も届かないのでムリみたい…。



次に紹介するのは年間全18回シリーズ講座「龍笛講座」です。「龍笛」とは雅楽の雅楽器の1つで横笛です。また雅楽は中国・朝鮮半島を経て、ベトナムや主にもたらされた伝統的な音楽のひとつで、世界最古のオーケストラとか。そんな雅楽には欠かせない龍笛は、低い音から高い音までで

いつきのみや歴史体験館

三重県多気郡明和町斎宮3046番地25

TEL.0596-52-3890

ホームページ <http://www.itukinomiya.jp/>

【入館料】無料 【開館時間】9：30～17：00

【休館日】月曜日(祝日の場合を除く)、祝日の翌日、年末年始

【交通案内】近鉄斎宮駅史跡公園口下車すぐ 伊勢自動車道玉城ICより約20分





中井 智弥 二十五絃箏 奏者・作曲家

●プロフィール

6歳の時に箏と出会う。東京芸術大学音楽学部邦楽科を卒業。同大学にて常英賞受賞。 津市文化奨励賞受賞。伝統的な箏や地歌三絃の演奏も行いつつ、日本伝統音楽の敷居の高いイメージを払拭するため、音域が広い二十五絃箏を使いジャンルを超えた活動を行っている。神話・日本の古い文学作品・お能等を題材に新しい感覚で曲を書き、様々なジャンルとコラボレーションを行っている。NHK教育テレビにて「おかあさんといっしょ」「花鳥風月堂」等に出演。 世界遺産コンサート下鴨神社に出演。

海外の演奏活動では、2007年国際交流基金海外公演主催事業「メキシコ移住110周年事業、日チリ修好110周年事業」でメキシコ・チリ・ドミニカ共和国を巡演し賞賛をうける。また外務省より文化使節としてタイ・ベトナムに派遣され、日メコン交流年オープニングイベントを飾る。帰国後、総理官邸にてベトナム書記長との晩餐会で凱旋公演を行い絶賛を受ける。 フィンランドのカンテレ奏者エヴァ アルクラとは日本とフィンランドを中心に伝統楽器で交流を深め一つの形を確立した。 2007年国際交流基金協力のもとフィンランドのシベリウスアカデミー・フィンランドカンテレ協会招聘による、ワークショップ・コンサートを行う。またフィンランドの各地で行われる音楽・芸術フェスティバル、日本フィンランド協会主催「修好90周年イベント」に招聘。

2011年アイスランドでの「NMD2011」にもオープニングコンサートを堂々飾る。2013年在エストニア日本大使館主催でエストニア三都市を巡演。2014年国際交流基金ニューデリー日本文化センター主催でニューデリー、ラクナウ、グワハティを巡演。JAPAN TRADITIONAL ARTS ACADEMY代表。

業平松を詠んだ歌

大淀の 松はつらくも あらなくに うらみてのみも 帰る波かな
『新古今集』

大淀の うらたつ浪の かへらずば かはらぬ松の 色をみましや
『斎宮女御集』 微子女王

大淀の 浜に生ふてふ みるからに 心はなぎぬ かたらわねども
『伊勢物語』

大淀の 霞吹きそう 松風に うらみてのみや かえるかりがね
『夫木集』 俊成女

さなくても 秋の面影 大淀の 松はつらしと うらかぜぞ吹く
『御裳濯集』 定家

大淀の 御祓幾世に なりぬらん 神さびわたる 浦の姫松
『拾遺集』 源兼隆

かずかずに 思う心は 大淀の 松をうらみる 浪の音かな
『千五百番』 後鳥羽院

大淀の 浦路のどけき 春の日に かすみぞ残る 松のむらだち
『夫木集』 順徳院

霞みゆく 松さへつらし 大淀の 浦立つ浪の かへるかりがね
同右 家隆

つらからぬ 松も恋ふらく 大淀の 霞ばかりに かかる浦波
『拾遺愚草』 定家

しるらめや 君がつらきは 大淀の うらみてかえる 波をかぞへて
『李華集』 宗良親王

大淀や つれなき松の 風だにも 波間しづけく 月をみるかな
北畠国永

『伊勢歌枕考』などに残されている。
以上のほか関白左大臣、行意、有家など高官・高僧の歌が、『勢陽雜記』、



大場 浩子 箏・二十五絃箏 奏者

●プロフィール

明和町出身。箏・三味線を故三宅雅仁・鈴木雅楽卓、二十五絃箏を中井智弥各氏に師事。2007年、2008年いつきのみや梅まつり、2009年いつきのみや歴史体験館記念式典にて箏演奏。

2012年東儀秀樹世界遺産コンサート(京都下鴨神社)中井智弥作曲「光明」で参加。2013年男女共同参画松阪フォーラムにて、箏演奏・ワークショップ。

2013年エストニア日本大使館主催エストニア三都市公演に中井智弥氏と出演。正派いつき会主宰。公益財団法人正派邦楽会師範。三重県三曲協会会員。



私達の「齋宮」について
より多くのことを知っていただくために
―地元で読める齋宮関係図書のご紹介―

凡例

○ふるさと会館（図書館）で貸出可
☆いつきのみや歴史体験館・博物館ミュージアムショップで販売可
◇齋宮歴史博物館図書ホールで閲覧可

凡例
◎ふるさと会館（図書館）で貸出可 ○ふるさと会館（図書館）で閲覧可
☆いつきのみや歴史体験館・博物館ミュージアムショップで販売
◇斎宮歴史博物館図書ホールで閲覧可

<p>「齋宮」の 入門書として</p>	<p>谷口布有緒文 里中満智子画『齋王ロマン 都わすれの詩』明和町◎☆ 中野イツ著『齋宮物語』明和町◎☆ 山川修司著『語り部の竹の齋王語り』近代文芸社◎☆ 榎村寛之著『伊勢齋宮と齋王』塙書房☆</p>
<p>郷土の歴史として 「齋宮」を 知りたい方に</p>	<p>奥井宏忠著『別れの御櫛―齋の宮と齋宮寮』光書房○○ 明和町教育委員会編『郷土史に見る齋王』○○ 三重の文化財と自然を守る会編『伊勢齋王宮の歴史と保存』○○ 『同Ⅱ』◇</p>
<p>齋王二行の旅した 「群行」の道を 歩いてみたい方に</p>	<p>田畑美穂著『齋王のみち―伊勢齋宮の文化史―』中日新聞本社○○ 村井康彦監修『齋王の道』向陽書房◎☆ 内田康夫著『齋王の葬列』角川書店○○ 池田美由喜著『鷲草―大津皇子とその姉と―』新風舎◇ 郡俊子著『倭姫宮の御巡行』勢陽文芸◎◇ 『伊勢齋王の恋』近代文芸社◎◇ 『哀しみの伊勢大来齋王』近代文芸社◎◇</p>
<p>「齋王」を小説で 読んでみたい方に</p>	<p>津田由伎子著『齋王』学生社○○ 山中智恵子著『齋宮女御微子女王―歌と生涯―』大和書房○○ 『齋宮志』大和書房○○◇ 『続齋宮志』砂子屋書房◎◇ 『齋宮簡記』砂子屋書房◎◇ 所京子著『齋王和歌文学の史的研究』国書刊行会◇ 『齋王の歴史と文学』国書刊行会◇ 榎村寛之著『律令天皇制祭祀の研究』塙書房◇ 中川ただもと著『齋宮和歌の解釈と鑑賞』紫明の会☆ 服藤早苗著『歴史のなかの皇女たち』小学館☆</p>
<p>「齋宮」や 「齋王」について 考えてみたい方に</p>	<p>『齋宮』や 『齋王』について 考えてみたい方に</p>



(敬称略)

1月	16日(木)	会計監査	6月	7日(土)	前夜祭	
	25日(土)	役員会		8日(日)	斎王まつり	
	31日(金)	総会・総務班会議		15日(日)	片付け・衣裳整理・反省・打上	
2月	10日(日)	出演者募集締切		16日(月)	衣裳片付け	
	13日(木)	役員会(出演者書類選考)		19日(木)	衣裳片付け	
	18日(火)	梅まつり会議		30日(金)	のぼり修理	
	23日(日)	子供説明会(子ども斎王抽選 中央公民館)	7月	2日(水)	伊勢まつり会議 土井代表出席(伊勢市役所)	
3月	2日(日)	「梅まつり」協賛(斎宮歴史博物館)第29代斎王古川・あこめ役4名出演		3日(木)	役員会(反省会)	
	6日(木)	役員会(選考会について)		18日(金)	フォトコンテスト応募締め切り	
	9日(日)	斎王役選考会(いつきのみや歴史体験館)		22日(火)	フォトコンテスト1次審査	
	14日(木)	梅まつりフォトコン選考会		23日(水)	大阪天神祭(天満宮 包丁式) 第30代斎王 伊藤参加	
	20日(木)	本部会議		31日(木)	役員会(フォトコンテスト入選・入賞作品選考)	
	27日(木)	役員会			応募者63名応募作品121点	
4月	10日(木)	第1回リーフレット校正会議	8月	26日(火)	観月会衣裳出し	
	14日(月)	第2回リーフレット校正会議	9月	5日(金)	役員会	
	16日(水)	第1回斎王市会議		6日(土)	いつきのみや「浪漫まつりと観月会」 協力出演(第30代斎王役 伊藤)	
	17日(木)	夕刊三重取材(第30代斎王・伊藤)		7日(日)	第32回斎王まつりフォトコンテスト表彰式 第32回斎王まつりフォトコンテスト入賞・入選写真展 (斎宮歴史博物館にて9月21日まで)	
	25日(金)	全体会議			12日(金)	臨時総会
	30日(水)	パンフレット校正会議	10月	2日(木)	役員会	
5月	2日(金)	リーフレット回覧(明和町全戸配布)		12日(日)	伊勢まつり 斎王群行 中止	
	7日(水)	衣裳直し作業		30日(木)	役員会	
	11日(日)	出演者説明会・リハーサル・のぼり準備・看板出し・ステージ製作準備	11月	9日(日)	古道まつり斎王群行 中止	
	13日(火)	知事表敬訪問 第30代斎王 伊藤・女別当 前田 参加		20日(木)	役員会	
	15日(木)	アトラクション会議		22～23日	世界キャラクターサミット(埼玉県羽生市) 協力出演(第30代斎王役 伊藤)	
	18日(日)	竹切り・ステージ作り・大道具作り 午後 子ども出演者説明会・ステージ組み立て		29日(土)	ざいしょ市(イオン明和店) 着付け体験 募集広報活動	
	19日(月)	第2回斎王市会議	12月	1日(日)	第33回斎王まつり出演者 募集開始	
		三重テレビ「旬感三重」出演(土井代表・第30代斎王 伊藤)		11日(木)	役員会	
	25日(日)	のぼり立て・ステージ組み立て KBS京都ラジオ出演(第30代斎王・伊藤)		16日(火)	伊勢市観光協会 訪問 土井代表・事務局	
	26日(月)	中勢警備打ち合わせ		18日(木)	本部・広報班 ホスター校正会議	
	27日(火)	博物館打ち合わせ		25日(木)	梅まつり会議 事務局出席	
	30日(金)	最終全体会議		26日(金)	事務所仕事納め	
6月	1日(日)	ステージ組み・着付け教室				
	3日(火)	衣裳準備				
	4日(水)	斎王市テント立て				
	6日(金)	最終ステージ組み・のぼり立て直し(荒たの為) FM三重ラジオ出演(副代表 森)				

(敬称略)

本部	代 表	土井 祐治	名誉会長（町長） 中井幸充						8
	副代表	笛川 浩	顧問	木戸口眞澄	西場信行	浜井初男	濱口 尚紀	辻井成人	
	副代表	岩佐 康則		長井雅美	辻 丈昭	東谷泰明	山川充造		
	副代表	森田 均							
	副代表	森 菜津子	相談役	辻 孝雄 西川道子	森島啓之 渡邊幸宏	東谷泰明 森下 清	橋本久雄 田中 貢		
	事務局	山中 いずみ							
会計監事	朝倉 惟夫	久世 晃							
任 務 分 担 の 内 容									
総務・財務班	総務の実施 財務の実施 グッズ販売・スタンプラリー等 斎王市の実施		◎森下 清	○田端正俊 森島啓之 野田節雄	竹内克巳 田中真司 橋本久雄	大西俊次郎 田中 貢 樋口 文隆	辻 孝雄 小林順一	中川裕正 奥山幸洋	14
会場班	着付会場内の管理 出演者の移動 記念写真		◎東谷泰介	○北川和樹	石田豊喜	澤 恒一	中瀬正実	東谷泰明	6
着付班	着付け準備と後片付け		◎新田一子	○清水清子 菊矢照子 森本さちこ	○田中政子 安井澄代 八田明美	○西宮幸代 夏井ちはる	衣斐喜代美 服部益子	竹内 喜子 新谷千恵子	13
まつり実施班	前夜祭の実施 祓の儀の実施 出発式の実施 群行の実施 社頭の儀の実施 アトラクションの実施		◎関岡武夫	○早川潤一 石田藤生 長谷川新 伊藤佳史 野上但治 中井圭吾 森川 高広	○中西修一 伊串金市 辻 満寿美 辻 正 鈴木健司 八木光彦 西岡 潤	○北山房夫 小林邦久 中島 宏 乾 健郎 小林正明 永井 健太 石田 真也	北岡 泰 佐々木久夫 市野秀世 間宮一彦 岩本温行 中倉 優 川北 真司	永島せい子 西岡信行 秋山修一 下村幸一 乾 秀治 加藤 江里	35
広報班	ポスター・パンフレット原案作成 広報・宣伝事業計画		◎北村哲也	○山内 理					2

群行衣裳



長奉送使【ちょうぶそうし】



監送使ともいう。斎王一行を伊勢まで送り届ける群行の最高責任者。沿道における警察権が与えられており、任を終えると直ちに帰京しました。

検非違使【けびいし】

平安時代から室町時代にかけて京中の警察を担当した職。元来、平安京の治安維持は京職や衛府の任であつたが、特定の官人に京中の警察を担当させることがあり、それが検非違使となり、やがて衛府や京職・弾正台などの権限を吸収し、王朝国家有数の警察機関となったのである。

看督長【かどのおさ】

検非違使庁の下級職員で、身分は火長。弘仁式制では左右それぞれにつき二人と定めら

隨身【ずいしん】

隨身とは、貴族が外出する際に警護にあたつた近衛府の官人を指します。それには高い教養と優美な美貌が求められたと云います。

駕輿丁【かちよう】



斎王の乗る輿（葱華輦）を担ぐ人です。

1. 冠
2. 綾
3. 太刀

- 1
- 2
- 3



斎王【さいおう】

天皇の即位ごとに、未婚の内親王（天皇の娘）あるいは女王（天皇の兄弟の娘など）の中から占いで選ばれ、天皇の譲位や崩御、あるいは肉親の不幸などにより解任されて、都に帰る決まりになっていました。伊勢神宮の祭りには、六月・十二月の月次祭と九月の神嘗祭に関わるのみで、ふだんは斎宮の中で都と同様の生活を送っていたものと考えられています。

古代から中世にかけての文学作品に登場する斎王も多く、『源氏物語』『伊勢物語』など、多くの文献に残されています。

十二単【じゅうにひとえ】

十二単とは近世になってからの呼び名で、正しくは女房装束、または裳唐衣（うわぎ）といひます。単衣の上に桂を重ね、打衣、表着の上にはベストのような唐衣をはおり、腰には前部のないプリーツスカートのような裳をつけます。貴族の女性の晴の衣裳（正装）です。

髪は垂髪、作り眉。上衣は、上から順に唐衣、表着、打衣、桂、単となっています。

唐衣は衽、衿合わせがなく、上からはおります。表着は上の御衣とも呼ばれる垂領広袖の衿仕立てです。打衣は砒で打って光沢を出したところからこの名があります。形は表衣と同じで紋様はありません。桂は、內衣の意味で、垂領、広袖の衿仕立てで地紋があり、数枚重ねて用います。単は桂と同形ですが、衽、丈ともに長く、単仕立てで裾はひねり仕立てになっています。下衣

には袴と裳をつけます。袴は緋の長袴（若年未婚は濃色）、裳は背にあてて結び、後に長く垂らして引きます。



1. 垂髪
2. 唐衣
3. 表着
4. 打衣
5. 衣（桂）（枚数を重ねている）
6. 単
7. 長袴
8. 裳（全体）
9. 裳の小腰
10. 裳の引腰
11. 櫛扇（相扇）
12. 帖紙
13. 日陰の糸（玉かずら）

※斎王が付けていたかどうかは定かではありません。



内侍または命婦【ないしまたはみょうぶ】

斎宮で働く女官たちの最高責任者として、乳母や女孺の上にいる立場にありました。

女別当【によべつとう】

内侍や宣旨が、斎王の住むエリアで公的性質をもつ仕事をこなす女官であるのに対して、乳母のように、斎王のプライベートな「宮家」としての用向きを担当していたのではないかと考えられますが、詳しいことはわかりません。

乳母【めのと】

母親に代わって養育を受け持つ女性で、斎宮には、斎王個人の「家」に仕える存在として、二名ないし三名が務めるようになっていました。

女孺【にようじゅ】

「めのわらわ」ともいう女官で、一等から三等に分かれており、それぞれに課せられた実務を担当していました。

采女【うねめ】

都では、地方の郡司の娘から選ばれ、天皇の御前などに奉仕していました。しかし、斎宮に采女がいたかどうかについてはよくわかっていません。

童・童女【わらわ・わらわめ】

都の官人が、家族で斎宮に赴任したということも考えられますが、その子供達が斎宮内に住んでいたという可能性はあります。しかし、群行の一員として加わっていたということとはなかったようです。



斎王フォトコンテスト

斎王賞



「受け継ぐ檜扇」 松阪市 後藤ミユキ

町長賞



「祭りの少女」 志摩市 山本芳喜

明和町教育長賞



「しとやかに」 鈴鹿市 榎本 清司

斎宮歴史博物館長賞



「清心」 明和町 長谷川 清美

特別賞



「斎王さんになれるわよ」 津市 瀧上 昭憲

特別賞



「きらびやかな華」 伊勢市 山村 晋平

特別賞



「禊の儀」 四日市市 伊藤 博光

特別賞



「初夏の風」 志摩市 大山 浩樹

特別賞



「祈りの影」 松阪市 萩原 伸

フォトコンテスト

◆サイズ

・カラーまたは白黒作品でサイズは四つ切のみ。

◆応募締め切り

・平成27年7月17日(金)当日消印有効

(郵送中の事故、破損については責任を負いかねます。)

◆応募方法

・応募票を作品裏面に貼付、郵送または斎王まつり事務局所受付。

◆応募上の注意事項

・応募作品には、応募者本人が撮影したもので一人2点以内(未発表の作品)に限ります。

・応募票の各項目に楷書で記入し、題名お名前にはかならずフリガナをつけてください。

(複数応募の場合はコピーしてください。)

・入賞、入選作品については、あらかじめデータをお借りすることがあります。

・パンフレットやポスター、ホームページなどへの使用権は主催者に帰属します。

・応募作品のご返却はいたしません。

◆賞

・入賞は、10賞(斎王賞ほか)、入選は10作品

◆選考方法

・作品は斎王まつり実行委員会にて選考いたします。

◆発表

・HPにて発表いたします。

・入賞者には直接通知いたします。(8月上旬頃)

◆応募先

・斎王まつり実行委員会「フォトコンテスト」係

◆応募・問い合わせ先

〒515-0321 三重県多気郡明和町斎宮2811番地

斎王まつり実行委員会事務局

電話 0596-15210054

明和町議会議長賞



「旅路へ」 名古屋市 水谷 勝





第30代 齋王役
伊藤 暁美

齋王役を務めて

前夜祭の間際まで降っていた雨は、祝福の雨だったでしょう。群行当日に見た、葱華輦越しでの晴天の景色はどこか懐かしさを漂わせた旅のはじまりでした。

「これが、かつての齋王たちの見てきた景色——歴代の齋王たちは、何を想い、何を感じたのか、齋王役選ばれたことで、その世界に少し触れられたような気がしました。」

この十二単の重みは、定めを受け入れ、使命を全うしてきた齋王たちの意志、そして、おまつりに携わる全ての人々の想いと歴史の重なりでもあるでしょう。一年間、真心をもって務めようとしていた自分自身が、皆様の真心に支えられているのだと気づかされました。こちらに向けられたあたたかい眼差し、空の色、あのひとときを忘れることはきっとありません。

そしてこれから先も、新たな歴史が刻まれていくことでしょう。

今後のおまつりの更なる発展と、皆様の幸せを心より祈っています。
感謝と願いを込めて。



子ども 齋王
岡田 心海

子ども 齋王を務めて

家族にすすめてもらい、応募してもらったことが、こども齋王をさせていたただいたきっかけです。

決まっただけからは、齋王さんのことをたくさん知りたくて、いつきの宮会館に何度も調べに行きました。

前夜祭で、開会宣言をするのはとても緊張しました。

齋王まつりでは、十二単衣が少し重く、歩くのは大変でした。しかし十二単衣が着れて、とても嬉しかったです。

群行行列では、初めて乗るそうかれんに揺られてドキドキしていました。たくさんのお客さんが手を振ってくれたりして、恥かしかったのと、嬉しい気持ちとで、いっぱいでした。



葱華輦復元模型 (齋宮歴史博物館蔵)

皇女の都 齋宮につどう

齋王まつり実行委員会 代表 土井 祐治

今年三十三回を迎える齋王まつりは、サブタイトルに「皇女の都 齋宮につどう」を掲げています。

このまつりは、町内の皆さま、町内外の協賛企業さまのご支援ご協力成り立っており、深く感謝いたします。子供から大人まで楽しめる「まつり」の成功をめざして、実行委員も頑張ります。

又、待望の平安時代の実物大復元建物「正殿・西脇殿・東脇殿」の三棟は七月末の完成を予定しています。先日、この建物を中心とした公園の名称が

「さいくう平安の杜(もり)」に決まり、これから敷地内に色々な建物や設備が出来、だれもが集い学び憩いの場として利用して頂くことができ、より便利になります。

平安時代の齋王

さまざま見られたであろうノハナショウブが咲き誇る「皇女の都 齋宮」につどい、雅なひとときをお過ごし下さい。



—— 三重県観光キャンペーン ——
2013.4～2016.3

主催／齋王まつり実行委員会

後援◎三重県、明和町、明和町教育委員会、明和町観光協会、齋宮歴史博物館、(公財)国史跡齋宮跡保存協会、(一財)民族衣裳文化普及協会、中部運輸局三重運輸支局、近畿日本鉄道株式会社、NHK津放送局、三重テレビ放送(株)、三重エフエム放送(株)、松阪ケーブルテレビ・ステーション(株)
問い合わせ◎齋王まつり実行委員会事務局 TEL.0596-52-0054 FAX.0596-52-7274